

---

# 額のカウントダウン

葦原那岐沙

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

額のカウンタダウン

### 【Nコード】

N4837L

### 【作者名】

葦原那岐沙

### 【あらすじ】

朝起きると、僕の額に謎の『数字』が浮かんでいた。

この『数字』は日本全土、全ての人間に現れていた。

知人にも、家族にも。

## （前書き）

初のホラー要素がある小説なので、まだまだつたない所があると思います。

お手柔らかに、よろしくお願いします。

朝起きたら、額に数字が書いてあった。

洗面所。いつものように洗顔と歯ブラシをするため、ここに来た。

鏡を覗いたら、そこには僕の顔と。

謎の数字が額に浮かんでいた。

黒い文字で、マジックなどで書かれたわけではない。その証拠に幾ら強く洗っても拭いても、まったく落ちない。

不思議に思いつつも、リビングに行くと僕はさらに困惑した。

家族全員の額に数字が浮かび上がっていた。

母は『4』

父は『1』

妹は『5』

背中が悪寒が走った。

テレビが点いている。そこから朝のニュースが、随分と慌ただしく読みあげられている。

見慣れた朝のアナウンサーが言った。

「日本全域の全ての人間の額に、謎の数字が浮き上がり、発生地も原因も不明。国の見解では――」

アナウンサーの額には「1」の数字があった。

僕は思わず吐き気がした。

父がテレビを静かに消し、僕たちに言った。

「落ち着こう、落ち着いて行動しよう」

母と妹は不安のどん底にいた。

僕と父は底知れない恐怖に追われていた。

§  
§  
§  
§  
§  
§  
§  
§  
§  
§  
§  
§

一週間が過ぎた。

国は、有力な情報を未だに何もつかめていない。

ただ、二つだけ分かった事があった。

一つは、日本国にいる、年齢、性別、人種関係なく全ての人間の額に数字が現れた。

二つ目は、額の数字は『9』が限界値で、二ケタの数字を持つ人間は今の所確認していない。

謎の組織によるテロ説、新種の病原菌説、宇宙人説。

色々な説が、テレビの中の評論家たちによって飛び交われた。勿論、額には各々数字を持っていた。

今日、中学校から登校許可が下りた。

今の所、この額の数字は、額に数字が表れた以外特に人体などには実害が無い。

一部の地域で、学校側が授業の再開を開始したのだ。

父や母は反対したが、僕は行く事にした。

額の数字と共に。

[illegible]

クラスは、やはり数字の話題で賑わっていた。

僕もその会話に加わった。

友達の額にも『9』や『6』など数字があった。

親友の薫がクラスに入ってきた。

額には『1』と数字がある。

すぐに薫も話に加わり、数分してから担任の先生も入ってきた。

額には『1』と書いてあった。

くくくくくくくくくくくくくくくく

翌日。

謎の泣き声で、僕の朝は始まった。

リビングに行ってみる。

妹が大きな声で泣いていた。

母が床に頂垂れていた。

父がうつ伏せになって倒れていた。

呆然としたまま突っ立っていると、母が僕の元へ来て、強く抱きついた。

父は死んでいた。

外傷は見受けられない。

顔は安らかな顔だ。

ただ、死んでいた。

テレビが点いている。そこから朝のニュースが、随分と慌ただしく読みあげられている。

いつもの見慣れた朝のアナウンサーはそこにいなかった。

見た事のないアナウンサーが言った。

「今日。額に『1』の数字がある人が、早朝6時ごろ一斉に倒れ、亡くなられました。国の見解では――」

僕は酷く吐き気がした。

頭の中に『1』の数字を持つ人たちの顔が浮かび上がった。

父の額の数字は消えていた。



僕は悟った。

次に死ぬのは僕だ。

何時死ぬかは、今の僕には分からない。

今かもしれない。

午後かもしれない。

明日かもしれない。

来週かもしれない。

来月かもしれない。

来年かもしれない。

ただ、僕が次に死ぬとゆう事だけは分かった。

僕の額には『2』の数字が浮かんでいた。

（後書き）

この小説をお読み下さって、ありがとうございました。

いい点、悪い点、などなどありましたら、一言下さると大いに励みになります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4837l/>

---

額のカウンタダウン

2010年12月30日21時41分発行